

# 算数 解答用紙

(令和2・中学・一般A)

1	(1)	(1)	(2)
	① 2020	② 8	① 12
	(2)	(3)	
	② $\frac{7}{24}$	7 通り	

2	(1)	持っているお金 2000 円, もらうお金 700 円	
	(2)	(3)	(4)
	12 cm	才	10 度

3	(1)	(2)
	12 cm <sup>2</sup>	24 cm <sup>2</sup>

4	(1)	(2)
	50 cm <sup>2</sup>	8 倍

5	(1)
	① ペンキ A は 1dL で $\frac{8}{15}\text{m}^2$ , ペンキ B は 1dL で $\frac{4}{9}\text{m}^2$ ぬることができる。 それぞれを通分するとペンキ A は $\frac{24}{45}\text{m}^2$ , ペンキ B は $\frac{20}{45}\text{m}^2$ となるので、 ペンキ A の方が少ない量でより多くのかべをぬることができる。
	(1)
	② $1\text{m}^2$ をぬるのに必要なペンキ A の量は $\frac{15}{8}\text{dL}$ で, ペンキ B の量は $\frac{9}{4}\text{dL}$ である。 それぞれを通分するとペンキ A は $\frac{15}{8}\text{dL}$ , ペンキ B は $\frac{18}{8}\text{dL}$ となるので、 ペンキ A の方が $1\text{m}^2$ をぬるのに必要なペンキの量が少ない。
	(2) 缶 A の 1L あたりの値段は $1800 \div 1.4 = 1285.7\cdots$ , 缶 B は $400 \times 4 = 1600$ よって, 缶 A をできるだけ多く買うと安くなる。全体に必要なペンキの量は $120 \div 7.5 = 16$ なので 16L, 缶 A は $16 \div 1.4 = 11.4$ から 11 缶必要。 $1.4 \times 11 = 15.4$ より, 缶 A で 15.4L 使う。 全体で 16L 必要なので, 足りないペンキの量は $16 - 15.4 = 0.6$ なので, 0.6L。 缶 B は $0.6 \div 0.25 = 2.4$ から 3 缶必要。 したがって, ペンキの合計の値段は $1800 \times 11 + 400 \times 3 = 21000$ <span style="float: right;">21000 円</span>

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

得 点	
--------	--